

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

5 学年を対象として行われた、令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の本校の状況についてお知らせします。

8 種目の体力テストの成績を得点化したものの総和である体力合計点でみると男子は全国平均点を下回り、女子は全国平均点を上回る結果となりました。

男子は8 種目中1 種目（反復横跳び）で全国平均を上回りました。女子は8 種目中4 種目で（握力、上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳び）全国平均を上回り、体力合計点も全国平均を上回りました。女子は全国と比較し、下回る種目は見られませんが、男子では、4 種目（上体起こし、長座体前屈、シャトルラン、50m走）で全国平均を下回る結果となっています。

質問紙からは、女子は、運動・スポーツをすること、体を動かすことが好きと答えた児童の割合が全国を上回っていますが、男子は運動に対する意識が低い傾向が見られています。このことは、体育の授業への興味や中学校進学後の運動やスポーツへの取組意識からも同様の傾向が見られます。また、朝食を毎日食べる割合も、女子は全国平均を上回っていますが、男子は下回るという結果となりました。平日のテレビを見たりゲームをしたりする時間は、男女ともに全国よりも短い傾向が見られています。成功体験や物事に粘り強く挑戦する姿勢については、全国平均と同様の結果となっています。

本校といたしましては、引き続き、適切な運動量を確保する体育科等の授業改善や体力向上コーナーの設置等をすすめるとともに、家庭や地域、関係機関と連携しながら、児童の生活習慣の見直しの働きかけを行いたいと考えております。

なお、本調査の結果につきましては、全国学力・学習状況調査の結果同様に「地域の学校教育の状況に関する説明責任」「学校・家庭・地域が連携して学校教育と家庭教育、地域の教育力の相互努力による体力向上の取組の一層の充実」という観点から、全国平均と本校の平均と比較したグラフを下記に示しました。

しかしながら、体力や運動能力等に関する調査では、地域や学校によって、学力に関する調査以上に「実施上の条件の差異」が見られることから、単に数値だけでは判断できないことをご理解いただきたいと思います。

